



「関東戦史研究連絡会」の富士総合火力演習及び部隊研修

東京地本城東地区隊は8月18日、東大、早大、明大等、東京都内に所在する大学で構成される「関東戦史研究連絡会」の学生20名に対して、東富士演習場において富士総合火力演習に参加する部隊の研修を実施した。

本事業は新たな募集基盤の確立を図るための取り組みの一つとして、今年度新たに企画したものであり、富士総合火力演習を表側と裏側の双方から見学させることで募集対象者となる学生に自衛隊の任務等の重要性を認識してもらおうことを主な目的としている。

当日早朝、マイクロバスで東京都内を出発し、東富士演習場に到着後、当初、特科教導隊広報班による観測中隊の気象班及びレダ小隊の陣地の概要等について説明を受けた。

次に、155ミリ榴弾砲が十数門布置している砲陣地へ移動し、火砲、弾薬等を見学するとともに、中隊長以下砲班による実射のための連携訓練等、火砲をもって射撃する際の一連の行動を展示して頂き、学生は熱心にその行動等を見学していた。

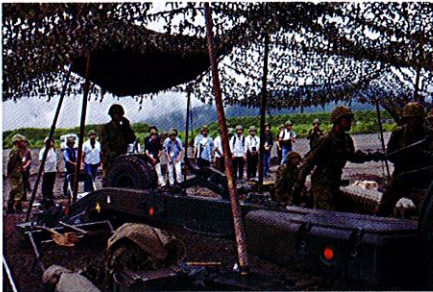
また、99式自走155ミリ榴弾砲、203ミリ自走榴弾砲においても同様の展示が行われ、砲班長に対し活発な質疑応答が行われ、当初予定していた時間を大幅に過ぎての終了となった。

その後、北富士駐屯地での昼食後、第一特科隊の広報室長より105ミリ榴弾砲の概要等について丁寧に説明して頂いた。第一特科隊は陸上自衛隊で唯一礼砲の任務を担っている部隊であり、学生は特に関心を抱いていたようであった。

最後に富士学校のヘリポートに展示してある装備品を見学し、帰路について。当初計画されていた実弾射撃が悪天候のため実施されなかったが、学生たちからは、「国防についての理解を深めることが出来た。」「来年度も是非企画していただければ友人を誘って参加したい。」等のコメントがあった。

後日、当該学生達も含めて富士総合火力演習に招待し、自衛隊の活動に対する理解と防衛意識の高揚を図ること等所望の成果を得ることができた。

東京地本城東地区隊は、来年度以降も引き続き特科教導隊をはじめ各部隊と連携を図りながら本事業を継続・拡充させ、安定的な募集基盤の確立を図っていききたいとしている。



第8回すみだストリートジャズフェスティバルで広報活動を実施

東京地本江東出張所は、8月20日及び21日及びび日の両日、墨田区錦糸公園等において開催された「第8回すみだストリートジャズフェスティバル」(主催：すみだストリートジャズフェスティバル実行委員会)において広報活動を実施した。

同フェスティバルは、毎年、錦糸町及び押上駅を中心に36箇所の会場で同時開催され、延約20万人が来場する夏の大型音楽イベントであり、東京地本は今年で4回目の参加となった。

当日は、第1普通科連隊第3中隊の支援を受け、偵察用オートバイを展示するとともに、東京都隊友会墨田支部の支援を受け一般広報を実施した。広報ブースでは、ミニ射的、ミニ制服試着及び希望者に対する募集案内を実施し、両日で約2千名の家族連れ等が訪れた。特に、ミニ制服を試着し偵察用オートバイで記念撮影を行う姿が多く見られ、大盛況で終えることができた。

来場者からは、「九州北部豪雨における自衛隊の活動をテレビで拝見しました。今後がんばって下さい。」等の温かい声が複数寄せられた。

墨田区では、今後すみだまつり等数々の行事が開催の予定であり、江東出張所は積極的に参加し、地域住民の自衛隊に対する理解を深めていくとしている。

